

令和4年度 幼保小の架け橋プログラムに関する調査研究事業 事業計画

【調査研究概要】

幼保小の円滑な接続を図るため平成30年に作成した「高知県保幼小接続期実践プラン」も踏まえながら、地域の課題を踏まえた体制づくりを進めるとともに、学校種、設置者や施設類型の違いを超えた架け橋期のカリキュラム開発を行い、幼児期の遊びの中の学びや生活について幼保小の先生が共に考えることを通して、架け橋期における実践の充実を図る。

令和4年5月23日（月）

高知県教育委員会事務局幼保支援課

高知県の現状

1. 本県の幼稚園、認定こども園、保育所、小学校の概要（R3.4.1）

幼稚園						幼保連携型 認定こども園			保育所				地方裁量型 認定こども園		小学校						
内、幼稚園型 認定こども園									内、保育所型 認定こども園												
34園						13園			17園				231園		5園		2園		189校		
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	国	公	私				
1	10	23	0	0	13	0	8	9	124	107	0	5	0	2	1	186	2				

2. 幼児教育と小学校教育の接続に関するこれまでの取組概要

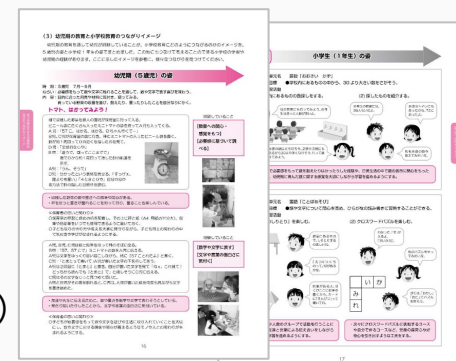
(1) 「高知県保幼小接続期実践プラン」（平成30年3月作成）による 全県下的な取組と周知・促進

- ・ 幼保小の円滑な接続の推進を図るため、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえたカリキュラム作成の仕方等を示したもの
- ・ 適切な支援のための幼保小担当指導主事等の「プロジェクトチーム」による協議（R元～）



(2) 「保幼小連携・接続推進支援事業」によるモデル地域の取組

- ・ 保幼小連携・接続推進支援事業モデル地域の公開保育・授業研究会やシンポジウム（R2）の開催による取組の県内全域への横展開
- ・ R元～R2の事業修了後は、引き続きモデル地域の幼稚園等と小学校に対して、担当課との連携による継続的な支援を実施（フォローアップ）



(3) 本事業のモデル地域となる市の取組

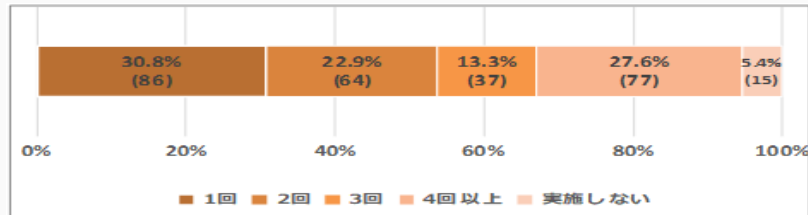
- ・ 「のびのび土佐っ子【保・幼・小連携】プログラム（指針）」の策定（H25）
- ・ 「人をつなぐ」「組織をつなぐ」「教育をつなぐ」の3つのアプローチ

高知県の現状

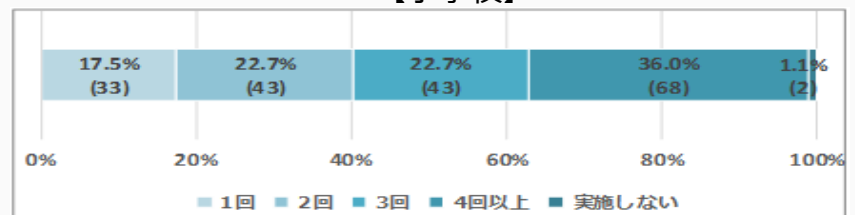
◆ R3 保幼小連携・接続現状調査結果（県幼保支援課実施）より

【全幼稚園・認定こども園・保育所・小学校の集計結果】

【幼保認】

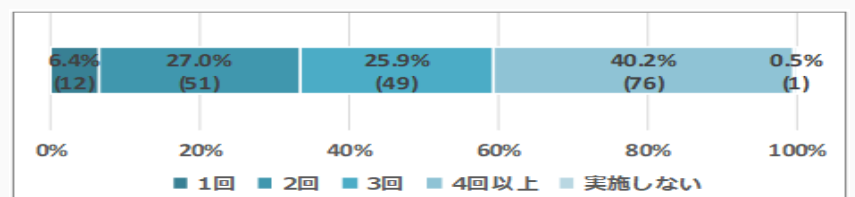
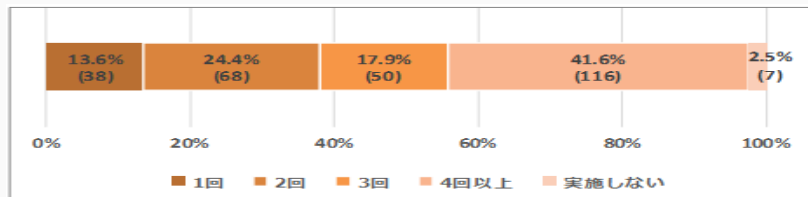


【交流会の実施】

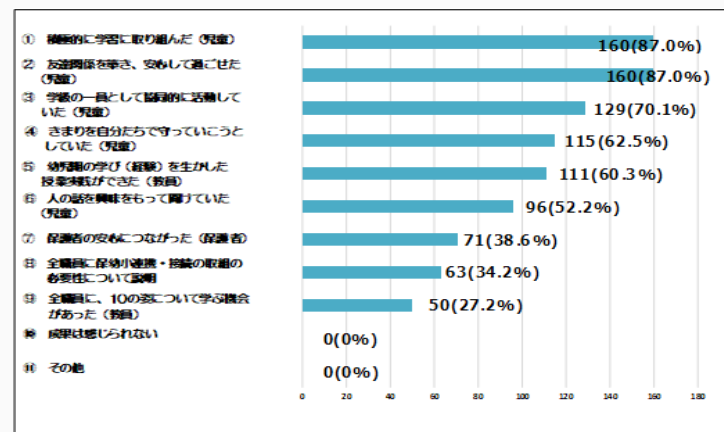
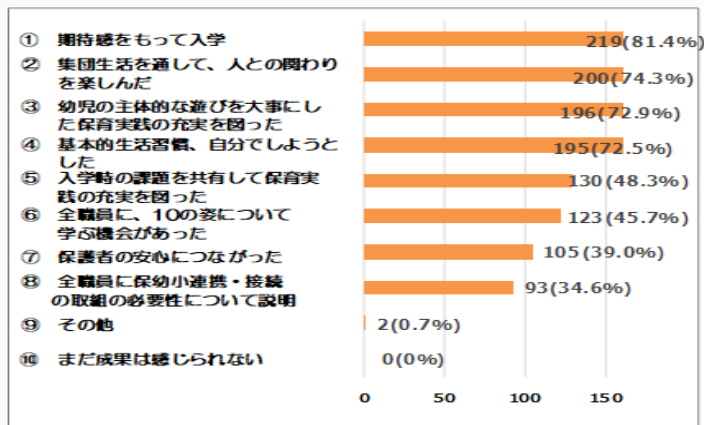


【小学校】

【連絡会等の実施】



【指導計画・スタートカリキュラムによる取組成果】



高知県の現状から今後の取組

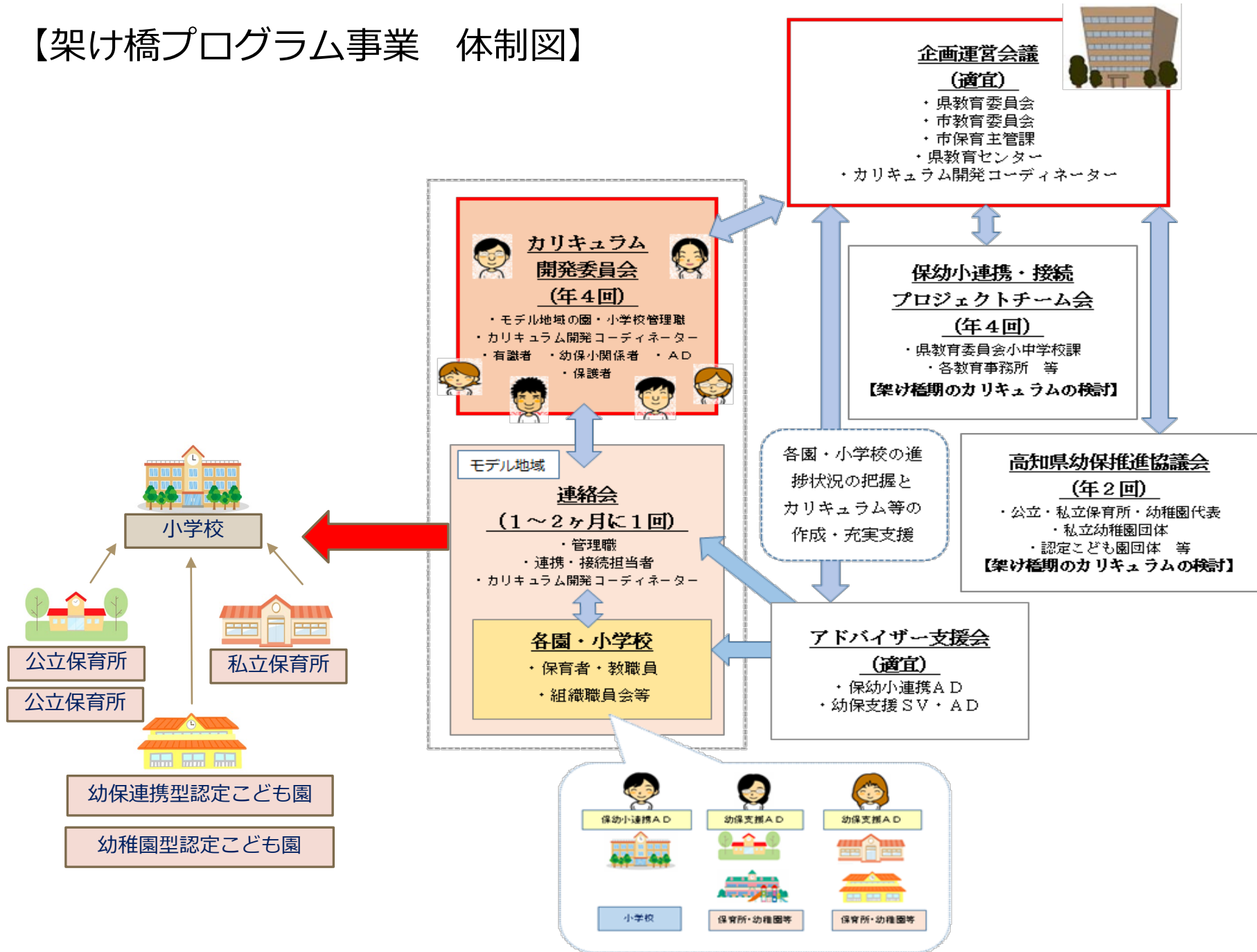
3. 事業計画の概要

- ◆ある一定規模の小さい地域では、幼保小の教職員同士が、ねらいのある交流活動等を通して、顔の見える関係性を構築し、**幼児期に培ってきた力を小学校へ生かそうとする意識の向上が見られる地域も増加しつつある。**
- ◆県全域で見ても、資質・能力をつなぐカリキュラムがそれぞれの施設ごとに策定され、理念を共通にしていない地域があり、例えば、ねらいが設定されない行事の交流会等にとどまっていたり、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」の理解も十分に浸透していなかったりする現状があり、**小学校へのつながりを意識した取組に課題が見られる。**
- ◆園や小学校を所管する市町村教育委員会等を中心とした**合同研修会等が、全ての市町村には定着しておらず**、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」の理解や活用について浸透していない。



- ★学校種や設置主体の違いを超えて、幼児期の遊びの中の学びや生活について、共に考える機会を確保し、小学校へのつながりを意識したカリキュラムの策定や教育・保育実践のさらなる充実を実現していきたい。
- ★複数の幼稚園・保育所等から小学校1校に入学する比較的規模の大きい地域の課題を踏まえた取組の充実が必要であり、その体制づくりと架け橋期のカリキュラムの開発を中心とした取組をしていくことで、子ども達の遊びの中の学びが、しっかりと小学校以上につながり、高知県の全ての子どもや教職員のウェルビーイングを高める研究としていきたい。

【架け橋プログラム事業 体制図】



事業計画の概要

(1) 「企画運営会議」の開催

- ①有識者、県教育委員会、市教育委員会、市保育主管課、県教育センターの構成員による「開発委員会」に向けた検討のための企画運営会議の実施
- ②カリキュラム開発に向けた、目指す方向性の共有

(2) モデル地域を対象とした「開発委員会」における検討・開発

- ①委員の委嘱（委員長・副委員長、他13名）により、定期的な委員会の実施（3か月に1回）
- ②地域の実態（よさや課題）の把握と目指す子ども像や方向性の共有
- ③目指す子ども像に向けた架け橋期のカリキュラム開発・検討（オンライン会議も含む）

(3) 接続を見通した各園・小学校による教育課程・指導計画等の作成

- ①連絡会（合同会議）による教育課程・指導計画等の見直し・充実
- ②共通の視点を基に、カリキュラムの内容検討
- ③交流活動等の計画と内容の充実及び交流会等の実施（園児と児童：主に年長児と小学1年生）
- ④公開保育・公開授業による協議の実施とアドバイザーによる支援（主に年長児と小学1年生）

事業計画の概要

(4) 各園・小学校での組織体制づくり

①窓口の明確化

- ・モデル地域の各園と1小学校に「連携・接続担当者」を1名配置

②職員会等での理解・啓発

- ・連携・接続担当者のみでの取組にならないよう、計画的・組織的に進めていくための報告や提案等を行う

(5) 自治体による支援

①アドバイザー等によるスタートカリキュラム時期の訪問支援

- ・保幼小連携アドバイザー等が訪問し、スタートカリキュラム時期の子どもの様子や教職員の実践について把握

②合同研修会、連絡協議会等の実施

③研修教材の開発・作成

④県教育センターとの連携

⑤交流活動の計画・振り返り等の支援

⑥公開保育・授業による園内研修・校内研究支援

- ・主に5歳児や1年生の保育や授業を見合い、遊びの中の学びや資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等を踏まえた協議の在り方を検討・支援

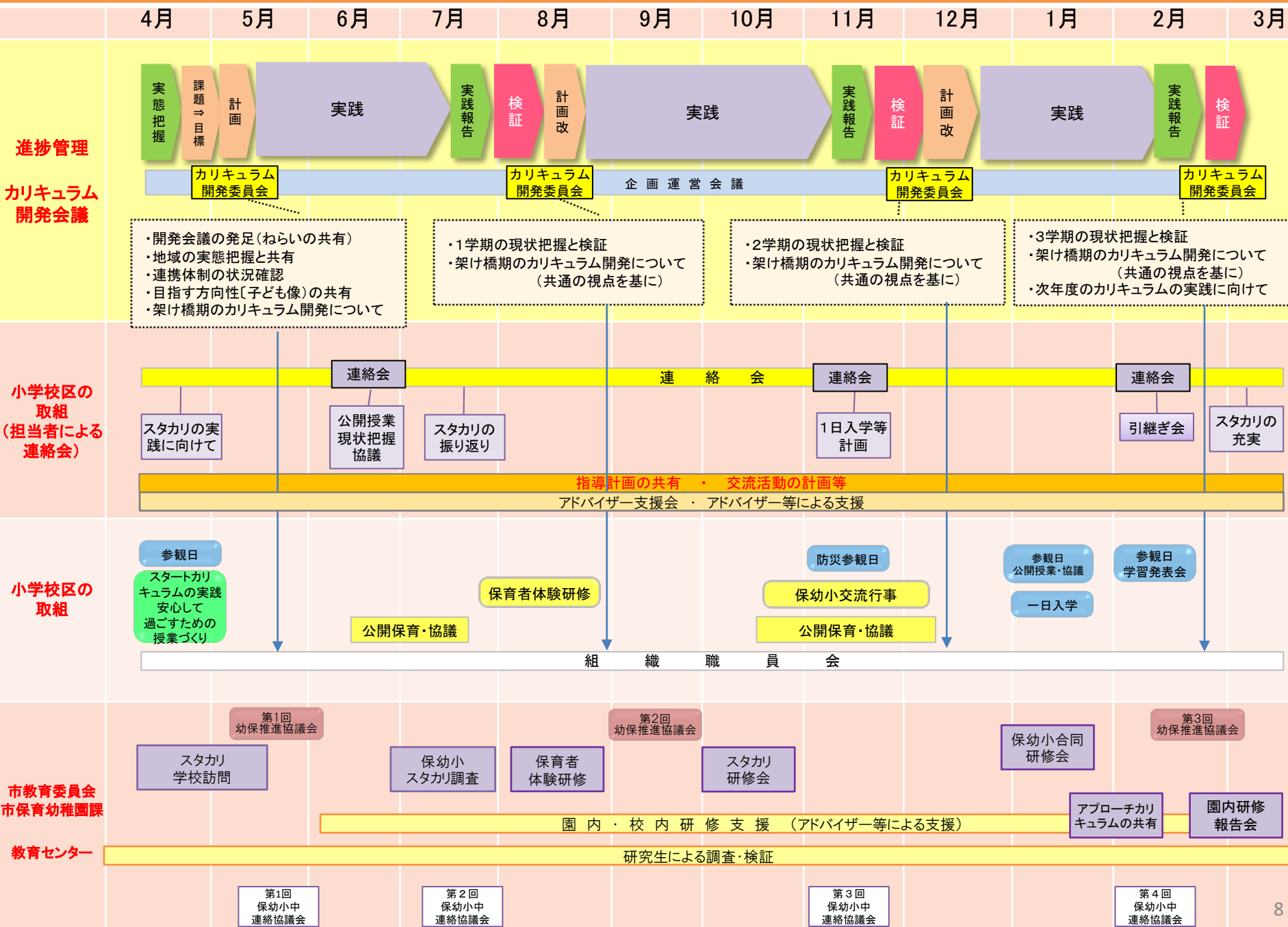
(6) 「架け橋期の教育の質保障の枠組み」との連携

①アンケート調査や実態調査

②実地調査

取組の年間計画（取組の検証・改善サイクル）

幼保支援課(案)



①健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

幼児期
(学びの芽生え)

入
学

児童期
(自覚的な学びへ)

子どもの姿

- ・体を動かす様々な活動に自分なりに目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ち切り替えて乗り越えようとする。
- ・生活の流れや状況の変化などを予測して、準備や片付けを行うなど、保育者の助けを得ながら見通しをもって園生活を送る。
- ・5～6人で自分たちで遊び方やルールを考えたり守ったりして遊ぶ。
- ・自分で排泄や始末ができるようになり、和式のトイレも使えるようになる。
- ・自分の持ち物を大事にしたり、ロッカーや道具入れなどに片付けたりするようになる。
- ・自分で衣服を着脱し、活動により体操服やパジャマに着替えたり、暑さや寒さによって衣服を調節したりしようとする。
- ・病気の予防に関心を持ち、体の不調があれば身近な大人に知らせることができる。

- ・避難訓練などを通し、災害時や非常時に自分の身を守ろうとする。
- ・右側通行、信号の見方、横断歩道の渡り方、道路の横断の仕方など身近な交通ルールが分かって守ろうとする。
- ・周囲の安全に気を付けて行動する。

- ・いろいろな食べ物に親しみ、苦手な食材もがんばって食べようとする。
- ・クラスの友達と一緒に楽しく食べる。
- ・野菜を育て収穫したり、料理してもらって食べたりし、食べ物に関心をもち栄養などにも気付くようになる。

① 園の畑で収穫したタマネギをむいたり切ったりして、すぐに鉄板焼き。「焼くと色が変わって甘いにおいになるね～」

- ・自分がやりたいと思うことを自己決定し、意欲的に取り組んだり、達成感を味わったりする。
- ・運動遊び(体育)でめあてに向かって継続的に取り組んだり、友達と競い合ったりして、休み時間などに思いきり体を動かして遊ぶ。
- ・次の時間の活動を考えて準備したり、時計を意識して活動したりするなど、一日の生活に見通しをもって行動する。
- ・体操服や水着の着替えなど、衣服の着脱が自分でできる。
- ・手洗い・うがい・汗拭きや食事、排泄などを必要性を意識して自分で行き、健康に気を付けて生活する。

保育者が大切にしてきたこと

- ・自分なりの目的を見つけ、取り組むことができるよう、一人一人の育ちや課題に合わせて関わる。
- ・遊びに使う道具や用具を子どもたちが自分で出し入れできるように準備したり、力いっぱい体を動かす気持ちよさや楽しさを感じたりできるようにする。
- ・基本的な生活習慣では、個人差を考慮して保護者への啓発を行い、家庭の実態に応じた取組を考えていく。



小学校教員が大切にすること

- ・活動の中で、児童が自己決定する場面を多く設定し、主体的な学びになるように留意する。
- ・安全に安心して遊べる場所を確保する。
- ・児童自らが活動や学習の見通しをもてるよう、黒板に掲示したり、継続的に取り組めるようゆとりをもった時間を確保したりするなどの支援をする。